

頑張れ店長

「ちよひようごう話」

今年も残り少なくなってきました。いろいろなことがあった1年ですが、年の締めくくりに「ちよひ」といい話を紹介します。コミユニケーションが希薄な時代になつたといわれますが、もう一歩踏み込めば、心と心の触れ合いがあるのです。

「今夜はオレに付き合え」

「今年入社した新人が、店に配属されて3か月で辞表を持ってきました。仕事の覚えが早く、私も期待していただけに、簡単に辞めさせるわけにはいきません。「今夜はオレに付き合え」といって、一緒に食事をして酒を飲みながら話しました。私自身が入社早々、職場に見切りを付けて辞めようとしたこと、そのときの上司が「お前はまだ何もわかっていない。いま辞めたら逃げ出すことになる。あと3か月だけ我慢して、それでも辞めたかったら辞めろ」と言ってくれたこと、それから3か月たつ

と仕事が面白くなって、もう少し続けようと思っているうちに現在に至っていることなどを精一杯の気持ちを込めて話しました。

「我慢したくなりました」

その後、新人君の様子を見てみると元気で働いていて、3か月たつて気持ちを聞いたら、「もう少し我慢したくなりました」と笑顔が返ってきました」（関東・A店長）
俗に「3日、3月、3年」は仕事を辞めなくなる時期といわれます。その時期を辛抱してやり過ごせば、仕事を続けられるでしょう。

上司の命名なんと「玉緒」

「結婚5年目で初めての子が生まれました。職場結婚で仲人を上司の営業部長にやっていただいたので、第一子誕生の報告に行くと、大喜びで『任せろ、名前はオレが付けてやる』と言われ、断るわけにはいかなくなりました。営業部長は翌日、店にやってきて、筆で

『命名 玉緒』と書いた半紙を見せながら『どうだ、いい名前だろう』と押しつけられました。部長が好きな女優の名前で、業界の応援でもあるから、これしかない」と由来を解説してくれました。私と妻は別の名前を考えていましたが、最後まで言い出せませんでした」（中部・B店長）

6万円入りの財布を落とし

「お客様が『この財布が落ちていたよ』とカウンターに届けてくれました。名前を尋ねると『急いでいるので』と立ち去りました。財布の中を改めると、6万円ほど入っていました。そのすぐ後で『財布を失くしたんだけれど、届けはありませぬよね』と男性がカウンターに来ました。財布の特徴と中身を尋ねると一致していたので、お客様が届けてくれたことを伝えてお渡ししました。諦めていた財布が戻った男性は、再び打ち始める

店長の投書

ある日、店に「社長さんはいますか？」と中年女性が訪ねてきたので、スタッフが「店長でよかったです」と事務所にお連れしました。話を聞くと、息子がパチスロにのめり込んで借金をつくり、家の中が大変なので、店に出入り禁止にしてほしいと言い、息子さんの写真を見せるのです。「申し訳ないけれど、ゴトなど違法行為をしていないのに入店禁止はできません。でも店で見かけたら、お母さんが心配していると伝えます」と言

訪ねてきた母「息子を出入禁止に」その言葉に思うこと

って、依存問題相談機関のリカバリーサポート・ネットワークの連絡先をお教えして、相談に乗っていただくよう申し上げました。依存症問題は本人より家族が深刻に受け止め、助けを求めケースが多いと聞きます。業界として、家族を相談機関につなぐ広報活動も必要ではないかと思うのですが、いかがでしょうか。（関東・店長）

と、すぐに大当たり。運が向いてきたのでしよう。カウンターで景品交換するとき、その一部を差し出して『財布を届けてくれた人にお礼をしたいから渡して』と言います。店としてそういうことはできないと言いましたが、強引に置いていきました。数日後、財布を届けてくれたお客様が見えたので、事情を話して景品を受け取っていただき、一件落着し

ました」(関東・C店長)

拾った財布を届けてくれるお客様がいる店は、本当にいい店だと思つたとC店長は付け加えます。

今年も2組が社内結婚

「今年初めて仲人を務めました。いまの店には今年赴任したので、以前から職場結婚が多く、毎年1〜2組が結婚していて、伝統的に店長が仲人を務めることになっています。男性社員とアルバイト女性、それにアルバイトの男女の2組がゴールインしました。2回も仲人を務めたのですが、まるで妻は自分が結婚するように張り切って着物を新調し、美容室で着付けと念入りな化粧をしてもらいました。とんだ散財になりましたが、社内結婚したスタッフは定着率が高く、それが居心地のいい店をつくっています」(中部・D店長)

この店では以前、独身の店長が仲人を頼まれたことがあったそうです。そこで店長は、付き合っていた女性と急遽結婚したという話がいまも語り継がれています。

お客様から一斉に拍手が

「怪しい客が来ると常連さんが目を光らせて、ゴトの素振りを見つけると呼び出しボタンでスタッフ

を呼び、『隣の兄ちゃんが、何か困っているみたいだから聞いてやってくれ』と注意を喚起してくれます。たいていはコソコソ逃げ出すのですが、先日はセルゴトの商売道具を落としたのが運の尽きで警察に引き渡しました。そのときは店内放送で『お客様のご協力で不埒な違法行為を発見し、ただいま警察に引き渡しました』と流したら、お客様たちから一斉に拍手が起りました」(関東・E店長)

常連さんたちの目が、何よりの監視カメラになつていようです。

閉店する店長さんが来て

「今年、地区のホールが閉店しました。閉店する1週間前、その店の店長さんがうちの店に尋ねてきて、『これまで世話になつたお礼に』と言って、エリアの顧客層を調査・分析した資料を差し出します。そして『閉店した店の資料だから有り難くないかもしれないけれど、おたくの店で役に立ててくれたら嬉しいよ』と言います。私は有り難く頂戴して、『閉店する店の分も頑張るから、あなたも新しい店で頑張ってくれ』と言って別れました」(中部・F店長)

来年はどんな良い出来事が待っているのでしょうか。